

国際会議成果報告書

(公財)スガウェザリング技術振興財団 助成事業

平成31年度国際会議助成 (第38回)

1. 国際会議名 ISO/TC156 第31回年次総会2019 (札幌)
2. 申請者所属・氏名 北海道大学大学院工学研究院 材料科学部門 エネルギー材料講座
准教授・林 重成
3. 開催期間 令和元年6月10日から令和元年6月14日まで
4. 国際会議成果の概要

(和文) 9ヶ国 (日本, 中国, スイス, 米国, 英国, 韓国, チェコ, スウェーデン, イスラエル) から、延べ116名が参加した。43件を審議した結果、得られた規格関係 Resolution 27件のうち、日本提案は11件の進歩承認を得た。また変更にも、日本より6件のNWIPプレゼンテーションを行った。

<SC1の状況 (構造物ごとの腐食)>

中国提案のCD認定3件のコメント対応を議論した。しかし内容は、Too Generalである。一方提案側は、トップレベル規格ではGeneralこそが特徴といい、議論がかみ合わない。今後規格そのものの議論を行っていくこととする。

<各WGの状況 (日本提案を中心とした主な成果)>

- ①WG4 (大気腐食) : 大気腐食試験片の Rating No 基準 (日本) のコメントを議論、アジアの鋼と Zn の腐食速度式提案 (日本)、今後 TR 予定。また、新たな拭き取りによる SO₂、Cl 付着測定法 (日本) を提案、今後 NWIP 予定。
- ②WG5 (粒界腐食) : 日本から JIS のシュウ酸電解法を提案、NWIP 予定。
- ③WG6 (一般試験) : i) 腐食生成物除去法改訂議論 (日本、現在 CD 投票中) ii) Galvanic corrosion 試験法提案 (日本)、iii) 深海環境中腐食試験法 (中国)
- ④WG7 (加速腐食) : 塩水噴霧試験の塩水採取位置基準見直し案、新たな Zn の CCT 法提案 (日本)、新規湿潤試験の提案 (チェコ)、間歇塩水 CCT の RRT 提案 (スウェーデン) など新規項目提案があった。
- ⑤WG9 (発電材の腐食) : 日本からのき裂進展試験、UCL 試験新規提案など3件を審議。また、未決定であったコンビナーは韓国に決定された。
- ⑥WG10 (カソード防食) : クーポン試験法 (日本) の DIS 議論。洋上風力腐食論議。
- ⑦WG11 (電気化学) : イオン透過抵抗法 (日本)、大気腐食モニター (米国)、AM 材試験 (韓国)、マルチ電極試験法 (米国) CD 投票後の議論、DIS 投票へ、また AI の電位測定孔食試験 (日本) の新規提案を行った。
- ⑧WG14 (エロージョン・コロージョン) : Jet-In-Slit 試験 (日本) 再度新規提案、CD へ

(英文) ISO/TC156 (Corrosion of metal and alloys) Plenary Meeting & its SC, 15WGs (two WGs managed by Japanese convenors) were held at Sapporo, Japan from June 10, 2019 to June 14. Japan has been playing a main role in this TC to propose 13 items currently by not only industry people, academia, but also government labs. In particular, atmospheric exposure tests of metals in worldwide to give corrosivity of the environments had contributed to protection guides. Japan has been proposing Asian data set into such IS due to few data which a new proposal of SO₂, Cl measurements. Accelerating tests have been also proposed by Japan and Sweden to simulate atmospheric corrosion of various metals.